

# 大阪城

2023  
1/16  
(月)  
14322  
号

全港湾  
西成分かん云

2247  
6647-  
4947

寒さもあと一ヶ月半ぐらいだろうが。まだ、  
厳冬の山を越えなアカンだろうが。その先には  
暗かくなると感じできるところまではやって来た。  
鼻やノドをやらせて咳をする人も寒さでいそ  
いでいるが。カゼ・インフルエンザとオミクロンウイルスの  
区別ははた目にはつちにくく悩ましいところだ。  
「XBB.1.5」というオミクロンウイルスの派生新変種が  
アメリカを中心にふえていて、日本にも入りこんでいる。  
死者も一日50人を超えたり、毎日400人以上死んだり  
しているが、ウイルス感染症については、TDMもマスコミも  
報道をしなくなっている。普通のカゼと感染が違って  
財政費用負担をやめるために、知らせない、報じ  
ない政治が動きはじめているようだ。ワクチンのこと  
など、聞かなくなったり、いなくなったりきている。  
やはり、軍事同盟だ。宇宙でも日米軍事同盟だ、  
金がいる。国民は、賞悟を済めて、税金の負担を  
するべきだ、とか、あおりは始めている。新しい戦前  
とか、いわれているが、軍国主義国家日本の復活のよう  
な政治が動きはじめている。民衆の社会や生活の  
動きから、そんな政治はアカンやろう、という、結合や  
合体、交流が代り反応のように生れて、土壌を変  
えていく転換期に、2023年はなっていくだろう。

# 2025万博会場整備に暗雲

## 入札不成立相次ぐ建設費上振れ、工期遅れに懸念も

2025年大阪・関西万博の会場整備事業が、はや正念場を迎えている。運営主体の日本国際博覧会協会(万博協会)が発注する施設の建設工事で、入札の不成立が続出。パビリオンの目玉となる「テーマ館」も4日時点で再入札の日程すら決まっていない。建設業界は資材価格のさらなる高騰を嫌気して応札に慎重な姿勢を崩しておらず、会場全体の建設費上振れや工期の遅れも懸念される状況になってきた。

### デザイン性の代償

「経費を抑えながら、質の良いものを作っていきたい。長期間で見れば、物価高騰もどこかで頭打ちになる」官公庁で仕事始めとなった4日、大阪市の松井一郎市長は万博の会場整備について記者団にこう語り、発注者と事業者との「歩み寄り」が今後重要になるとの見方を示した。クオリティーの追求とコストの削減。一見相反する2つの課題を両立させるには、確かに「歩み寄り」が欠かせない。だが世界に向けて万博を開催する以上、発注者側も安易に妥協できない。そのさじ加減の難しさが如実に現れたのがテーマ館の入札だった。

テーマ館とは、生物学者の福岡伸一氏や映画監督の河瀬直美氏ら各界で活躍する8人のプロデュースで、それぞれ建設される8つのパビリオンのこと。いずれも独創的なデザインが目を引く万博の目玉施設で、昨年10～12月に6件の入札が実施されたが、予定価格超過や参加者ゼロといった理由ですべて不成立に終わった。産経新聞 1月4日 土屋 宏剛 山本 考志 (沢野貴信撮影)

2年あまりにせまってきた「大阪万博」 物資も労働力も高騰して調達も厳しくなっているようです。時代が変わって建築工法も代わっているからか「70年万博」の時代とは様変わりの「労働市場」のありようです。